

# そのときあなたは どうしますか

東日本大震災から1年6カ月。

あの日をきっかけに、一人一人の防災に対する意識は高まったと思います。

しかし、いざというとき、どう行動すればよいのでしょうか。

今号では、9月1日の『防災の日』にちなみ、地震や津波が発生したときにとるべき

行動や、東日本大震災以降の市の取り組みなどについて紹介します。

約10万5,000人の死者・行方不明者を出した  
関東大震災（大正12年）を忘れず、防災の教  
訓として活かすため、昭和35年9月1日、  
『防災の日』が定められました。

【写真提供 岩手県宮古市役所】

## 東日本大震災から学ぶもの

平成23年3月11日に三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生。地震と太平洋沿岸を中心とした高い津波により、死者1万5千857人、行方不明者3千57人が犠牲になりました。

犠牲になった人の9割以上が津波で亡くなりました。

（人的被害 4月25日警察庁調べ）

6月28日に北海道から津波浸水予測図が発表され、登別市の最大津波水位は10・2メートルになることを広報のぼりべつ8月号でお知らせしました。市は、それを踏まえ、津波避難計

画の策定や地域防災計画、避難所、備蓄倉庫の見直しなど、災害対策を強化していきますが、東日本大震災のような規模の災害が実際に発生したときには、行政ができることには

限界があります。

命を守るため、自ら迅速に判断し行動することがとても重要です。

東日本大震災では、そのことがいかに大切かを示す事例がありました。

それが、『釜石の奇跡』です。

岩手県の釜石市立釜石東中学校の生徒たちは、地震発生直後、自らの判断で、ハザードマップで設定されていた高台の避難所よりもさらに高い場所に避難。その日登校していた生徒全員が助かりました。

この奇跡は、繰り返し行ってきた

防災教育が実を結んだものでした。

このように、いざというときに自分の命を守るためには、もし大災害が発生したらどう行動するか、どんな準備が必要かを日ごろから一人一人が考えておくことが大切です。

### 避難のための三原則

（岩手県釜石市津波防災教育より）

- 一、「想定にとらわれるな」
- 二、「最善を尽くせ」
- 三、「率先避難者たれ」